

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第84期中間期（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

上半期は経済状況の好転も期待されてのスタートでしたが欧州経済の不安定な状況の長期化、それに伴う中国経済の減速などにより世界的に景気の後退が鮮明となりました。このようななかで当社グループの電池事業におきましては富士通アルカリ乾電池史上最高性能を誇る新アルカリ乾電池「PremiumG」、くり返し使えて低自己放電性能に優れる「富士通 充電電池」、さらには、スマートフォンの充電に適した「富士通 スマホ乾電池」などの新製品を市場投入し、拡販に力を入れてまいりました。またニッケル水素電池の高い安全性を活かし新型の定置型蓄電システムの開発、事業化に取り組んでまいりました。上半期を終えるにあたり、これら新製品が新規顧客獲得などの面においてこれからの当社グループの核となっていく手応えを感じてきている所であります。電子事業はハイブリッド車や電気自動車、太陽光発電関連機器向けの超高性能なフェライトを生産するため、7月に山陽工場にフェライト新工場を立ち上げました。

上半期の経営環境が厳しさを増すなか、上記諸施策の効果の現れが遅れ、売上については期待したほどの伸長は出来ませんでした。各部門の状況につきましては次頁以降に概要をご報告いたしますが、グループ全体の売上高は351億9百万円、営業損失は16億26百万円、経常損失は17億23百万円となりました。この厳しい状況に対して、社内および流通経路での在庫を徹底的に削減し事業の効率化を一層進めております。具体的にはグローバルでの経営の見える化、在庫管理の徹底にも力を入れてきました。製造リードタイムの大幅短縮化にもグループ一丸となって取り組んでおります。

中間配当につきましては、未だ欠損金を抱えていることもあり、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

市場の厳しさは今後も続くと思われれます。ヒット商品でさえ右肩上がりの成長はあったとしても直ぐに目新しさが失われてしまう時代であると考えております。そのようななか、当社グループは新たな中期事業計画（2013-2015）を発表いたしました。徹底的な経営効率化の追求とともに、現行の電池事業、電子事業に加え新たに保有技術を活用したシナジー製品を拡充してまいります。いつも申し上げていることではございますが、環境変化に柔軟に対応し新たな発展の道を切り拓いてまいり所存でございますので、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成24年12月



代表取締役社長

望月 通正